

第65号

令和7年4月1日

理
窓

理窓教育会報

東京理科大学理窓教育会

事務局 PORTA 神楽坂6階

巻頭言 『東京理科大学創立150周年へのエール』

理窓教育会会長 富岡 康夫(48理・化)

1881年6月14日に物理学講習所として設立された東京理科大学は2031年に創立150周年を迎えます。建学の精神である「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」を深く心に刻み同窓の関係者にエールを送ります。特に理窓会の先輩方がさまざまな形で後輩を導いたことに感謝せずにはられません。

さらに大学は「学校法人[東京理科大学長期ビジョン-TUSVISION150](#)」を作成し、これからの方向性を明らかにしました。そこには「日本の理科大から世界の理科大」へと創立150年時の本学の姿を次のように描いています。

①日本の先進技術を駆使しイノベーション創出に貢献する多くの人材を育成。

②科学技術、経営、教育の分野で世界レベルのリーダーとして活躍できる人材を供給。

③人類への貢献をめざし、高い実践力と忍耐力を持ってたゆまなく課題の解決に挑む人材を育む環境。

④基礎研究から応用研究まで幅広い分野に亘って世界をリードする研究拠点。

⑤学際的コミュニティの中で多様性をもった自由闊達な議論を求め、世界各国から人材が集う拠点。

⑥世界のいたる所で社会に貢献する理窓会メンバーである校友の強固なネットワークの中核。

このような本学の姿に、私たち教育会はどのように貢献できるかを改めて考えるべきではないでしょうか。増淵忠行理窓会校友会会

長は新年度から理窓会 REBORN（新たな形で生まれ変わる）を提唱して、新たな理窓会の姿に向かって全力で臨んでいます。維持会会長の酒井陽太氏は支部の新年会の折に明治14年創立のときの社会状況を解説し、理系の学問を学ぶ本学が科学技術創造立国の果たしたことに誇りを持つと力強く述べています。

さらに正月の歌会始めて、本学理学部化学科の生徒が『「実際に叶ふ程度にしておけ」とそんな夢など見たくないのだ』と詠んだ歌が入選しました。この歌に理科大生の心意気を感じたのは私一人ではないと思います。

今年度の15回の坊っちゃん科学賞は全国から応募があり、11月10日に最終選考に残った5つの生徒研究発表を神楽坂校舎211教室で、最終審査を行いました。審査委員は大学の専門の先生方で、質の高い質疑応答があることが応募校からも指摘され好評であります。

今回の最優秀賞に輝いた学校は西南学院高等学校（福岡）「アプリ119通報システムの提案 Part2」の発表です。初めての情報分野からの受賞です。松原秀成実行委員長は今回もレベルの高い研究であり、応募総数が253件とうれしい悲鳴をあげています。

最後に埼玉県の野澤直美先生等の「古土法による火薬の製造」の研究がNHKの歴史探偵に2月26日に放送されました。ご紹介致します。

理窓教育会は多くの先生方の参加で發展します。改めて、ネットワークの重要性を再認識し、皆様のお力添えをお願い致します。

(文華高等学校名誉校長)

支 部 報 告

北海道支部報告

支部長（平 2 理・数） 能登 啓児

気候変動の影響か、今冬の北海道では特有のパウダースノーではなく水分を含んだ重たい雪に悩まされたり、例年はそれほど積雪のない地域で局地的な豪雪となったりで、「おかしな冬ですね」という会話がよく交わされていました。

北海道支部では、昨年8月3日(土)に支部研修会・懇親会を開催しました。コロナ禍の影響でなかなか実施が叶わず、実に4年振りの顔を合わせる機会となりました。

研修会では、高橋胆振教育局長(理数H3卒)から「GIGAスクール構想の現状と期待」と題して講演をいただき、個別最適な学びと協働的な学びの実現、校務のDX化、生成AIの活動などについての状況や学校現場に期待されていることなどを学び、議論を交わしました。少数精鋭7名の参加でしたが、懇親会では大学時代の思い出や飯田橋境界の様子など、あっという間の楽しい時間を過ごし、本当に有意義な時間を共有することが出来ました。

北海道という広域な地域性もあり、多くのメンバーが集まることがなかなか難しい状況ではありますが、来年度以降も継続して開催していこうと考えています。

また、来年度は「集まろう！若い高校の先生！」と題して、全道の若手教員に呼びかけ、先輩教員の模擬授業や理科大出身の予備校の先生からの受験指導に関するアドバイス等を通して、授業力を高めながら交流することも計画しています。

青森支部報告

支部長（40 理工・電） 村本 卓

理窓教育会青森支部総会は、理窓会青森支部総会と合同で開催しています。今年度は4年ぶりに支部総会を開催しました。懇親会では、第25回坊っちゃん賞受賞の渡辺聡明さんに花束が贈られ、渡辺さんから苦労話が紹介されました。受賞の対象となった「おもしろサイエンス」は毎年実施している支部独自のイベントで、今年度は8月16日に第20回

目を開催し、活動の様子を理窓会青森支部のHPで紹介しています。

岩手支部活動報告

支部長（54 理・数） 佐藤 尚

岩手支部では例年11月に支部総会を開催しています。令和3年度は新型コロナウイルス感染症蔓延により支部総会を中止し、令和4年度は情報交換会を行わずに事務的な総会とノンアルコールの食事会のみとなりました。昨年度から、以前のような情報交換会・総会並びに懇親会を再開しております。

例年の支部総会では、小規模校・僻地校・通信制などの教育現場の実践報告や、会員の活動状況報告を行うなどの情報交換会を行っています。また、懇談会では楽器演奏などがあり、和やかに交流を行っていました。

今年度の情報交換会では、現在岩手県高等学校PTA連合会の事務局長を務めている私の方から、PTAの起源や現在抱えている問題点などの情報提供を行い、時間が足りなくなる程活発に質疑が交わされました。

総会では、令和5年度の会計決算が報告され、また、現役員について、コロナ禍でほとんど活動ができなかったことから多くの役員の再任が承認されました。

本部挨拶・報告等では、石川正俊学長からのビデオメッセージを挟んで、大学常務理事の樋上賀一先生と理窓会副会長の野村香織様からご講話をいただきました。

懇親会では、ギターやフルートの演奏もあり、近況報告などで大いに盛り上がりました。

参加者は昨年度よりも若干多い16名となり、「こうよう会」岩手県支部長の沼崎千恵子様にもご出席いただき、父母会との交流をすることもできました。

今後、参加者を増やすことが課題となりますが、ひとまず以前と同様の総会を開催することができてホッとしております。

秋田支部総会報告

支部長(58 理工・数) 長岐 康彦

秋田支部では教育会としての活動は特にはしていないので、昨年に引き続き通常開催した総会の報告で替えさせていただきます。

総会には東京理科大学常務理事安盛敦雄様、理窓会副会長伊藤稔様、こうよう会より3名の来賓を迎え、総勢30名の参加となりました。

総会議事では総ての議案が承認されました。今年は改選の年ではないのですが、昨年度の役員改選の段階で3名少ないままでした。若手の会員が意欲的に運営に関わってくれていることから、改選を待たずに共に平成22年卒の2名を幹事に追加補充する事になりました。

総会で毎年行っている講演では、秋田県立大学助教の大塚亜希子さん(H27 工研・建築)が「地域とともに秋田ならではの課題解決を目指す取り組みの紹介」と題して、大学に着任以降取り組んでいることを紹介してくれました。

昨年若手の参加者が増えたことを報告しましたが、今回は平成20年以降の卒業生が5名参加してくれました。また久々の参加(20数年ぶりや10年ぶりなど)の方も数名おり、コロナ禍を経て当支部総会の参加者も大分景色が変わったような印象を持った会となりました。

総会報告を簡単にいたしました。ちょうど教育会全国支部長連絡会をオンラインで行ったばかりですので、教育会の在り方について少し考えてみました。連絡会では東京や神奈川など都市部での活発な活動状況が報告されましたが、一方教育会としての独自の活動は特になく、支部の活動も総会・懇親会で旧交を温めているという地方支部が多いことも分かりました。地方ではそもそも同窓生のUターンが少なく、地元で教職員を目指す人も減っています。当支部では、かつては総会参加者のほとんどが教員だった時代もあり、あまり教員色を出さない方が良いのではないかという声もあったものです。優れた理数教員

を輩出するという大学の理念も分かりませんが、地方において敢えて教育会という組織立ての必要性はあるのだろうかという思いをしています。

群馬支部総会報告

支部長(平2 理工・修情) 新井 高広

群馬支部総会は、令和6年11月23日に無事開催されました。群馬県では毎年、理窓会総会と理窓教育会総会を同日に実施しており、今年度の総会には21名が参加してくださいました。ここ数年、群馬支部総会には毎回約40名の出欠連絡をいただいております。そのうち約半数が教職に関わる同窓生となっています。

総会では、理窓会群馬支部および理窓教育会群馬支部の会計報告や役員案について審議を行いました。

審議終了後には、同窓生である平方宏様(S51 工卒)にご講演をいただきました。平方様は、ご自身が経営されている平方木材株式会社の創業124年にわたる歴史と歩みについてお話くださいました。木材業界の発展や変遷についての貴重なご経験を交えながら、木材が私たちの生活においてどのような役割を果たしてきたのかを詳しく解説していただきました。長い歴史の中で、木材とともに歩んできた企業の姿に、深い感銘を受ける時間となりました。

一方、理窓教育会に関しては、ここ数年間は具体的な活動を行えておりません。今回は、富田忍理窓会群馬支部長より、過去5年間における群馬県へのUターン就職者に関する情報提供がありました。報告によると、学部卒・大学院卒を合わせて200名を超える卒業生がいる中で、群馬県に戻った学生は26名に止まっている実態が明らかになりました。この状況を踏まえ、群馬支部として今後どのようにUターン就職者や地元の同窓生と繋がりを持ち、支援していくかが、会の運営において大きな課題であるとの認識が共有されました。

総会終了後には懇親会が催され、参加者同士が近況を報告し合い、和やかな雰囲気の中で楽しい時間を共有しました。多くの参加者から「来年はさらに多くの同窓生に参加してもらいたい」という声が聞かれ、同窓生同士のつながりをより深めることへの期待が高まっています。

今後も、群馬支部として同窓生の交流の場を大切にしながら、より多くの方に参加していただける会を目指して活動してまいります。

埼玉支部総会報告

支部長(平1理事) 金井 信也

埼玉支部では理窓教育会埼玉支部総会の他、年に2回の幹事会と1回の講演会・懇親会を事業として実施しています。第1回目の幹事会は総会への準備、第2回の幹事会は講演会への準備という位置づけで行っています。令和6年度は第1回目の幹事会を5月26日(日)、第2回目の幹事会を10月6日(日)に実施しました。総会は7月7日(日)に昨年度と同様、理窓会埼玉支部総会と日程を合わせた形で実施しました。理窓会埼玉支部総会と同日で実施することで会の効率化、出席者への利便性が図られていると思います。講演会は11月30日(土)に実施しました。今年度の講演会では、東京理科大学教養教育研究院 神野 潔 教授をお招きし、「女性法曹のパイオニア 三淵 嘉子 そのキャリア、思想、時代背景を中心に」と題し、令和6年上期、NHK朝の連続テレビ小説「虎に翼」のモデルとなった女性初の判事、裁判所所長を務められた 三淵 嘉子 氏についてご講演いただきました。ドラマで描かれたところはもちろん、フィクションであった部分や、またドラマでは取り上げられなかったお話なども盛り込んでいただき、大変興味深くお話を聴くことができました。また、今回の講演会は21名の参加があり、教育会のほか、理窓会埼玉支部、企業人部会からも参加いただきました。神野教授をはじめ、関係された方々にこの誌上をお借りして御礼申し上げます。

さて、本会は会員の拡大、特に事業の引継ぎをしていただく若手の先生の確保が課題となっております。今後も、各方面の皆様にお力をお借りする場面が多々あるかと存じます。引き続きのご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

東京支部総会報告

支部長(48理・化) 富岡 康夫

令和6年度の理窓教育会東京支部総会は、昨年同様に対面で5月26日(日)午前中実施いたしました。

東京支部総会は、全国理窓教育会(本部)理事会後に開催しています。この形が教育会東京支部と全国理窓教育会との連携された総会になっています。

日頃の東京支部では、役員ほぼ全員がZoom会議に参加できる体制が整っていますので、本年度もZoom会議を中心に活動を推進しました。また、当日の午後に理窓会(本部)東京支部と教育会東京支部が共催となる懇親会を開催しました。

教育会東京支部の大きな活動の柱は、一つが「東京都管理職候補者面接研修会」の開催です。本年度の活動は、以下の通りです。

【実施期日】令和6年9月16日(月)午後

【面接官】高等学校：現・元校長……17名

中学校：現・元校長……8名

【面接参加者】

校長候補 高等学校……16名

中学校……10名

副校長候補 中・高等学校……7名

なお、この面接研修会は、理科大教育会東京支部の企画運営で行われますが、面接官・面接者は出身大学を問わず参加できるシステムをとり交流と研修の場となっています。今後も東京都の教育推進に寄与するために、東京支部として活動を継続し現職の会員の皆さんとつながり活性化を図っていきたく思います。

二つ目ですが東京支部として大学と連携を深めるために「若手教員ネットワークの会」の支援に全力で取り組みを進めています。今

年も令和6年10月20日（日）に第4回目の研修会・懇談会を開催いたしました。具体的には、本紙の別の項目にご報告いたします。この「若手教員の会」に教育会東京支部の会員の方々も参加され、理科大との連携に寄与できました。

「若手教員の会」は、理窓教育会として今後も支部活動の活性化のために大切になっていくと思いますので重視してまいりたいと思います。なお、各地区の組織（北海道・新潟・愛知・岐阜・千葉・茨城・埼玉・神奈川・私立学校）などにも繋がりを持っていますので各支部活動に広がっていかれるように取り組んでいきたいと考えています。

千葉支部教職員部会からの報告

教職員部会長（H3理・物）高梨祐介

前任の県立船橋高等学校・風戸正校長より部会長を引き継ぎました、県立千葉高等学校校長の高梨祐介と申します。鈴木隆文支部長のもと、教職員部会および支部会員の交流を深め、活動の充実に努めてまいります。

令和6年度の活動についてご報告いたします。5月12日（日）に事務局打合せを実施し、会計状況や役員会の進行を確認しました。その後、昼食をとりながら近況を語り合いました。6月9日（日）には役員会を開催し、総会に向けた準備や議事の確認を行いました。

8月24日（土）には、支部および教職員部会の総会・記念講演会・懇親会を開催しました。東京理科大学から浜本隆之理事長、山崎晃弘理窓会副理事長、酒井陽太維持会長、富岡康夫理窓教育会長をはじめ、多くの来賓をお迎えし、総勢60名がポートプラザちばに集いました。石川正俊学長からはビデオメッセージを頂戴し、母校の発展と今後のビジョンについてお話いただきました。総会では議事の審議を行い、新役員が承認されました。記念講演会では、元学長の藤嶋昭先生を講師に迎え、「科学を楽しく」というテーマでご講演いただきました。身近な話題から宇

宙まで、科学の面白さを熱く語られ、数学や理科を教える教員にとって刺激的な内容でした。懇親会では、幅広い世代が交流し、藤嶋先生の教え子や企業人、新人教員・学生など、多くの方にご登壇いただきました。また、ゲストの祥子さんによる美しい歌声が会場を魅了しました。

年が明けた1月19日（日）には、飯田橋の理窓会倶楽部にて千葉支部の新年会を開催しました。開始前には東京理科大学近代科学資料館を見学し、伊藤稔館長と学芸員の大石和江様より展示資料について丁寧な説明をいただきました。新年会には、理窓会の増淵忠行会長、富岡康夫理窓教育会長をはじめ、近隣支部からも多くの来賓をお迎えし、総勢37名が参加しました。

神奈川支部活動報告

支部長（51理・数）田中 均

令和6年11月10日（日）「ホテルザノットヨコハマ」にて、令和6年度の総会並びに懇親会を開催しました。参加者は27名でした。総会のあと、東京理科大学発ベンチャーのSpace Walker 社取締役 CTO で東京理科大学教授米本浩一先生から「飛行機に乗るように誰もが自由に宇宙を往き来が出来る未来のスペースプレーン」についてのご講演がありました。そのあとは懇親会が和やかに行われました。





山梨支部総会報告

支部長(53 理・物) 橋田 多喜夫

理窓教育会山梨支部総会は毎年、理窓会山梨支部総会と合同で開催しています。本年度は令和 6 年 10 月 19 日 (土) 15 時から甲府市「シャトレゼホテル談露館」で 6 名の参加で開催しました。

来賓として、理窓会副会長大谷三喜男先生をお招きしました。

東京理科大学浜本理事長と石川学長のビデオメッセージが紹介され、「理科大の展望」として、大学の中期計画が説明され、学部・学科再編や情報分野を担うデジタル人材の育成の学部についてお話がありました。また、葛飾キャンパスの整備や高大連携の強化についてもお話がありました。また、2031 年の創立 150 周年に向けての近代科学資料館の取り組みの案内や、社会人教育(リカレント教育)への取り組み、2026 年開設の「創域情報学部 情報理工学科」「科学コミュニケーション学科」の説明があり、大きく変化し発展を続ける母校の姿勢を頼もしく感じました。

大谷先生からは、理窓会海外 8 支部の様子や、ルネサンスから「理窓会 REBORN」を掲げ、情報発信への新たな取り組みの説明がありました。また、ホームカミングデーや名簿提供を通して、卒業生との絆の強化に努めることや、創立 150 周年記念事業への協力についての話もありました。

議事では、令和 5 年度の事業報告・会計報告、山梨県支部の活動報告がありました。今後も、支部総会へ多数の会員が参加できるような取り組みしていくことを確認しました。

総会後懇親会に移り、ご来賓の方と様々な話題に充実した楽しいひとときを過ごしました。

静岡支部報告

支部長(55 修薬) 樋口 和男

校風

大学入試後半の 3 月になると、週刊誌に高校別の大学合格状況の速報が特集される。商売柄気になる記事であり、つい立ち読みをしてしまう。同じように大学の様々なランキングが示された雑誌に興味を持ち、母校を探すのは私だけではないだろう。多くの雑誌では採用担当へのアンケートに基づいた企業評価が、ランキングやコメントとして寄せられている。各雑誌を比べても本学のランキングやコメントは似たようなものである。母校はしっかりとした教育システムで質の高い学生を養成し、進学先や就職先の面でも高評価を得ているようだ。

さて先日大手 IT 企業の方と話をする機会があり母校の話題をしてくれた。その会社では理大の出身者は多く、部下に何人もの卒業生がいるが、皆専門的に高いスキルを持っており、真面目で勤勉である。これは校風なのではと指摘された。採用試験に通っているので高いスキルは当然であろうが、真面目で勤勉との指摘は校風かもしれないと思った。

以前、東大の教授から聞いた話を思い出す。教授曰く、大学院の内部進学者は集中力や洞察力などは優れているが、意欲や勤勉さに欠けてか社長出勤・定時退社の風潮がある。これに比べ外部からの進学者は一般的に真面目で、その典型として母校からの進学者がいる。スキルもしっかりしており勤勉なので良い研究成果を出してくれると期待しているとのことだった。

様々な雑誌、IT 企業の現場、大学院ともに

母校卒業生への評価の共通性に驚く。社会には天才も必要であるが真面目にコツコツと実績を出す者も必要である。怠ければ留年の伝統は続き、それが学生の堅実さや勤勉さを育てているのだろう。これが物理学校の開校当時から続く校風となっているようだ。

信州支部報告

支部長 (63 理工・建) 清水 史明

令和 6 年度理窓教育会信州支部は高校校長 3 名、副校長 1 名です。教育会の会長は理窓会信州支部で副支部長（教育関係）を拝命しています。教育会の総会は理窓会信州支部総会を兼ねて開催しています。令和 6 年度の信州支部総会は 10 月 20 日（日）に長野市のホテル信濃路で開催しました。参加者は 21 名で、大学から常務理事の兵庫明様、本会常務委員の佐藤薫様をご来賓としてお迎えいたしました。総会は学長のビデオをメッセージ、協議の後、講演会として理科大OBの落語家桂歌助師匠を講師に「落語の世界」の演題と落語」を披露していただきました。

理窓会信州支部の会長は公立諏訪東京理科大学教授の飯田洋一先生に担っていただいております。公立諏訪東京理科大学は現在、大学のある長野県の諏訪地域（岡谷市、諏訪市、茅野市など）の 6 市町村が設置する公立大学法人が設置者となっていますが、前身の諏訪東京理科大学の卒業生は理窓会に所属しており、飯田先生の教え子も理窓会信州支部の事務局の運営協力もいただいております。長野県内の高校は探究活動や工業高校の高大連携などで公立諏訪東京理科大学から多くの協力を得ています。理窓教育会信州支部も公立諏訪東京理科大学の理窓会の先生方とも交流をし、高大連携や高大接続などで情報を交換しています。理窓教育会信州支部としても公立諏訪東京理科大学と長野県内高校との連携強化のために更に協力をしたいと思っております。

富山県支部総会報告

支部長 (60 理・化) 近藤 智久

富山県支部では、例年、理窓会富山支部総会と併せて総会を開催しています。今年度は、富山地鉄ホテルにて 8 月 3 日(土)に開催され、前年度の会務・会計報告、新年度の活動案及び支部役員案がそれぞれ承認され、無事終わることができました。また、理科大学の兵庫常務理事と理窓会の上村副会長にご出席いただき、大学の状況などについて話していただきました。

総会終了後には、富山大学の和漢医薬学総合研究所の中川嘉(よしみ)教授に「生活習慣病研における笑いと驚きのアカデミア研究生」と題してご講演をいただきました。

懇親会では、一人 15 秒の自己紹介や恒例の景品抽選会を行うなど大いに盛り上がり、親睦を深めることができました。

これらの様子は、活動レポートとして

理窓会富山支部の HP (<https://tus-alumni.risoukai.tus.ac.jp/shibu/toyama/>) に掲載してありますので、ぜひご覧ください。

福井県支部総会報告

支部長 (59 理・物) 油谷 泉

福井支部では、会員の拡大が依然として難しいことから、今年度は、今後の会員確保に結びつけていくため、東京理科大学こうよう会福井県支部の行事「講演会及び会員向け就活説明会」に参加させていただいた。

こうよう会は、東京理科大学学生の保護者と大学教職員からなる保護者会組織で、今年度の福井県支部の会は、令和 6 年 11 月 30 日に開催され、保護者 10 名（9 世帯）、大学教員 1 名、こうよう会本部役員 1 名に、理窓会福井支部から私を含め 2 名が参加した。

私からは、少し時間をいただいて、本県の子どもの学力・体力が全国トップクラスであること、その教育内容や指導方法、教職員の研修等について全国から高い評価を受けていることなどを紹介させていただくとともに、本県の教員採用試験の概要や、取得資格・講師経験等に応じた加点など本県独自の

制度を説明させていただいた。

教員を目指している、あるいは選択肢の一つとしている学生さんは9名中2名であったが、それでも本県の教育の現状にご理解をいただき、低学年の学生の保護者におかれては、子どもにも話をしてみるとの声をいただいた。

地道な取組みではあるが、全国的に教員志望者が減少している状況において、ふるさと福井へ戻ってきて教職を選択することの魅力を少しでも伝えることができたと思っている。

新年度においては、この取組みを継続するとともに、理窓会福井支部においても会員拡大に苦慮されていることから、理窓会と理窓教育会が協力して、少しでも声かけの幅を拡げながら会員の入会につなげていきたいと考えている。

滋賀支部活動報告

支部長 (60 理工・数) 池田 健一

理窓教育会滋賀支部は、現在、会員の実態把握ができておらず、活動実態が全くない状況です。まずは会員名簿の作成から取りかかる必要があります。私は 2024 年 6 月に理窓会滋賀支部代議員とあわせて理窓教育会滋賀支部長を担当させていただくこととなりました。理窓会滋賀総会は例年、6 月初旬に行っており、2025 年度は 6 月 1 日(日)に行う予定です。理窓会滋賀支部も 30 年ほど前までは会員の多くが教員であったと聞いていますが、現在の会員の多くは企業人であり、滋賀支部総会への現役世代の参加が少ないのが課題となっています。特に現役教員の参加はほとんどありません。教育会滋賀支部としては、理窓会滋賀支部総会にあわせた教育会総会を開催するために名簿作成と滋賀支部総会参加の呼びかけを強めて参りたいと思います。また例年、夏頃にこうよう会滋賀支部の懇親会が行われますので、その場においても理窓会とあわせて教育会の紹介を行い、教員を目指す現役学生の支援につとめたいと考えています。

岡山支部総会報告

支部長 (46 理工・数) 三浦 康男

理窓教育会岡山支部設立の経緯は、私が理窓会岡山支部の活動に参加し始めた 30 年以上も昔、総会に参加したときに、参加者から「この総会は、教員の会か、もう来年からは来ない。」と言われたのがきっかけです。

確かに当時の総会は、教員出身の参加者が多く、教育界以外の出身者にはなかなか話が合わなかったのではないかと思います。教育界は改革の時期でしたので、教育について過去の経験を基に現職の教員のかかえている悩みを聞き、教育現場に少しでも支援ができればとの思いから、理窓教育会岡山支部を設立しました。私は教員の出身で、理窓会岡山支部長をしていたので兼務しました。設立の経緯から、理窓教育会の総会は、理窓会の総会とは別々にすることになり、何回かは開催し有意義な会ができました。

しかしコロナ禍のため、何年かは中止になりました。再開しようと思い開催時期を調整しましたが、学校現場との調整が上手くいかず理窓会岡山支部総会と兼ねて総会を開催しています。

理窓会総会は、その後教育界以外の参加者も増え、設立当時の状況と変わってきています。しかし、教育については大変重要なため、総会は理窓会総会と兼ねても良いが、必要に応じて理窓教育会も随時開催する必要があると思っています。

岡山県は地方なので、卒業して岡山県内に就職するのは、教員または地方公務員が多いと考えられるので「こうよう会岡山県支部」との緊密な連携が必要です。幸い「こうよう会岡山県支部」の支部長は、現在理窓会岡山支部の会員でもあるので、今まで以上に連携ができるものと嬉しく思っています。

なお、理窓会の会長短信にもありましたが、岡山県の倉敷市、瀬戸内市の教育長さんは理窓会の会員でもありますので、教育に関しては力になってくれると思います。

広島県支部報告

支部長 (58理・応数) 板倉 宏治

広島県支部総会は、9月29日に理窓会支部総会と合わせて、開催しました。理窓会支部総会には、大学より常務理事兵庫明様、理窓会副会長野村香織様に加え、こうよう会広島支部より、山口茂範支部長にもご出席いただきました。

理窓会支部総会では、浜本隆之理事長、石川正俊学長からお届けいただいたビデオメッセージによって、大学の現状について詳しくお伝えいただきました。また、本年度は理科大出身の歌手、布井祥子様をゲストとしてお招きし、盛り上げていただきました。

教育会支部総会は、理窓会支部総会・懇親会に先立って行い、昨年度からの経過報告、会計報告に加え、理窓教育会総会の内容、各支部の取組についても共有を図りました。それをもとに、教育会広島県支部の活性化に向けての意見交換を行いました。現在、支部教育会の会員は高齢化が進み、会員数が減少する中、何か理科・数学を楽しむ会や催しを理窓会の会員の協力も得ながら行うことが出来ないかと模索を続けているところです。

理窓教育会報を見る限り、広島県での理科大出身教員は、近年、非常に少なくなっています。このような状況下、11月10日には、こうよう会広島支部において就職説明会が行われ、保護者約30名が参加されました。その場において、理窓会広島支部前眞一郎支部長より、広島県の教員採用の現状や採用後の教育会支部としての支援のあり方等について、説明がなされました。こうした連携を通じて、理科大出身の新規採用教員の増加を図るとともに、支部会員交流の活性化、活動状況の情報発信を通じて、若手・中堅の理科大出身教員の相談役、よりどころとしての役割を果たせるように努力していきたいと考えています。

今後、他県の活動を参考にさせていただき、支部の活性化に努めていきたいと考えています。

鳥取支部報告

鳥取支部 (63理・数) 倉光 博史

鳥取県では、教育会の活動を行っていませんが、理窓会の支部総会は少人数ながら行っています。なかなか報告もできず残念です。管理職もたぶんこの人かなあ？はありますが、4月からかなりの管理職異動が予想されています。私の同年の管理職や教員が多く、この3月31日で役職定年を迎えます。(私も含め)4月からは教諭として定年62歳まで行うか、このまま役職定年で退職される方もいます。動向がわかればいいのですが、今卒業した大学名がわかる資料をみるのが難しく大変です。(本人からの申し出がないと難しい状況です)4月以降で、教諭となりますが、わかる範囲で調べたいと思います。

徳島支部報告

支部長 (61理・応数) 濱本 寛信

感染法上の位置付けが「新型インフルエンザ等感染症(いわゆる2類相当)」から「5類感染症」になり、日常生活が少しずつ元へ戻り始めた、去る令和5年12月に昨年度(令和5年度)の校友会理窓会徳島支部総会を11年ぶりに開催できました。

開催にあたり、理窓会本部からご提供いただいた徳島支部の会員名簿を基に案内状を送付いたしましたところ、残念ながら転居先不明で、返送されてきた案内状が多数あり、会員名簿整理の必要性を強く感じるようになりました。

このようななか、今年度は、開催時期を少し繰り上げ、令和6年11月30日に校友会理窓会徳島支部総会を開催いたしました。昨年度からの改善として、案内状送付時に会員名簿を整理し送付したところ、すべての方に案内状をお届けすることができました。

今年度案内のできた、徳島支部会員は295名でしたが、うち14名が総会へご出席いただき、そして、理窓教育会徳島支部の会員である教育関係者は退職者を含めて6名でした。連絡の取れる徳島支部所属の卒業生はすべての職種を含めても約300名程度にすぎま

せんから、今後も校友会理窓会徳島支部総会と合同で理窓教育会徳島支部総会を開催していきたいと考えています。

また、徳島支部会員約 300 名のうち、教育関係者がどれくらいいらっしゃるかが現時点では、十分把握できていませんので、次年度へ向けた取り組みとして、教育関係者の人数すなわち、理窓教育会徳島支部会員数の把握に努めたいと思います。

校友会理窓会徳島支部もやっと組織として動き始めたところです。来る令和 7 年度も校友会理窓会徳島支部総会と合同にはなりますが、理窓教育会徳島支部総会の開催と理窓教育会徳島支部活性化に向け、引き続き頑張っていきたいと思います。

佐賀支部活動報告

支部長(59 理工・数) 吉山 耕一郎

本部から、東京理科大学校友会理窓会会長増淵忠行様、東京理科大学常務理事長 浜本隆之様を来賓としてお迎えし、佐賀支部としては初めて 2 年連続で佐賀支部総会を開催しました。

増淵理窓会会長からは、以下の内容についてご説明をいただきました。

①理窓会の年間 3 大行事(新年茶話会、代議員会、ホームカミングデー) ②創立 150 周年に向けて ③秋山仁先生の NHK 番組④ノーベル平和賞(田中熙巳先生) ⑤理窓会デジタルチャンネルなど。

理科大の関係者がノーベル平和賞に貢献していたことに、誇りを感じました。

また、浜本理事長からは、「東京理科大学の展望」というテーマで、以下の内容についてご説明いただきました。①中期計画 2026 ②学部学科改編等③「教育力、研究力が高い大学」として次第に 1 位など。

さらに、九州工業大学・長崎大学キャリアコンサルタントの早川加恵様より、『人生 100 年時代の在り方、生き方』と題して記念講演が行われました。講演では、以下の内容が非常に興味深く紹介されました。①現在の雇用状況②マルチステージに必要な 3 つの無

形資産③人生 100 年時代は「最終学歴」ではなく「最新学習歴」など。

懇親会では、参加者全員の近況報告や情報交換を通じて親交を深めました。また、理窓会本部が把握する県内会員全員に案内状を送付した結果、初めて参加される方もおられ、活動の活性化に繋がりました。

なお、次年度から支部長が吉山耕一郎氏に交代することが総会で承認され、新たなスタートを切ることとなりました。さらに理窓会佐賀支部の LINE オープンチャットが開設され、参加者全員が登録していただきました。

宮崎支部報告

(62 理・応化) 児玉 康裕

令和 6 年 11 月 30 日に 5 年ぶりの宮崎支部総会を開催することはできましたが、宮崎支部での理窓教育会を開催することはできませんでした。

今後、他都道府県の取組を参考に開催に向けた検討を深めたいと思っております。

さて、特段の報告ができませんので、今回も宮崎県の教員採用に係る取組について報告させていただきます。

宮崎県で教師として働きたいと思う人材を確保するため、大学とどのような連携を図っているかであります。

大学との連携としては、採用試験における県内外の大学からの推薦者に対して、1 次試験を免除する特別選考試験を実施しております。また、大学生に学校の職場体験をさせる「スクールトライアル」や授業実践力の向上を目指す「ひなた教師塾」を実施しており、これらの履修を単位として認定している大学もあります。なかでも、全国に先駆けて、宮崎大学と連携し創設した宮崎県教員希望枠では、高校へのガイダンスから、大学での育成まで、長期視点に立った、人材育成を行っており、本年度より、その定員を 15 名から 30 名に拡大しています。

今後も、大学との連携を深めながら人材の確保に取り組んでいかねばならない状況が続きます。

令和 6 年度 《第 15 回》
坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト
～発表会はコロナ禍前に戻し実施～
実行委員長：松原 秀成（45 理・物）

第 15 回『坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト』は、2019 年度第 11 回大会（コロナ感染流行前）のスタイルに戻して実施することができました。

この「坊っちゃん科学賞」は、理窓教育会の先生方のご支援・ご協力により実践ができております。今回は分野別審査会に新たな取り組みとして、現役の若手教員の先生方 10 名に加わっていただきました。審査員総数は 60 名の先生方によって分野別審査会を実施いたしました。また、様々な諸準備、当日の運営に於いてもご尽力をいただきました。

それでは経緯と結果などについてご報告をさせていただきます。

(1) 参加校数・応募論文数

・参加校：全国 104 校（発信案内状約 2000 校）

・応募論文数：253 点

(2) 審査の経緯（論文提出期限：令和 6 年 8 月 31 日）

・分野別審査会（理窓教育会の先生方 60 名による審査を 9 月 7 日（土）に実施。各分野で優良入賞約 5～7 点を選出。選出した優良入賞論文を大学の総合審査委員に送り、見ていただく。）

・総合審査会（令和 6 年 9 月 19・24 日）の二日間。理科大の教授 11 名に、送った論文の審査をしていただき各分野から優秀賞校一校を決定。

・9 月 30 日（月）全国の応募校に結果報告を行う。

(3) 結果（優秀賞 5 校）は以下の通り。

- ① 相互誘導を利用したワイヤレス送電における効率の測定
名古屋市立向陽高等学校
- ② 四万十川における農業排水による濁水化の改善
愛媛県立宇和島東高等学校

③ 腸内細菌叢の観点から見たミルワームの特異的な食性と消化について

早稲田大学高等学院

④ 知らない現象（不知火現象）を科学する
熊本県立宇土高等学校

⑤ アプリ 119 通報システムの提案 Part 2
西南学院高等学校（福岡私学）

(4) 発表会当日

・令和 6 年 11 月 10 日）午後 1 時～

発表会会場：理科大学神楽坂キャンパス
2 号館 211 教室

・審査委員：審査委員長秋山仁先生、理科大の先生方 11 名による審査の実施。

・事務局：30 名（教育会の先生方）

(5) 最優秀賞校の選出（11/10（日）発表会の結果）

◆西南学院高等学校が選出されました。

【今回の発表会の特色】

①今回より優秀賞校 5 校以外の応募校に呼びかけ参観していただいた。参加者は 108 名であった。

②その後、動画編集を行ない昨年 12 月中旬から理窓会本部ホームページに掲載し公開致しました。現在、公開中ですので皆様にも是非ご覧いただけますと幸甚です。

③今回も昨年同様に石川正俊学長先生に開会から最後の表彰式・閉会式までご参加をいただき、生徒たちに研究する価値と楽しさ、失敗から学ぶことの大切さなどお話がありました。

④優秀賞校 5 校の研究発表に際し、秋山仁審査委員長からは、素晴らしい発表でしたとお褒めの言葉がありました。やはり対面で行なう発表は臨場感に溢れ、高校生の皆さんの息づかいが伝わってきます。やっと、5 年ぶりに元に戻すことができましたが、何か新鮮さが伝わって参りました。

【結びに】

全国の先生方・高校生の皆様、そして関係各位の皆様のご協力に敬意と感謝を申し上げます。なお、第 16 回「坊っちゃん科学賞」も計画しています。

**令和 6 年度
若手教員ネットワークの会の報告
—第 4 回懇談会・懇親会を開催—
理窓教育会理事 松原 秀成**

今年度も第 4 回目となる「若手教員ネットワークの会懇談会・懇親会」を開催いたしました。

◆開催日程など

令和 6 年 10 月 20 日（日）午後 1:30～4:30
東京理科大学校友会理窓会の理窓会倶楽部にて

◆参加者内訳

若手教員：25 名（北海道からの参加者 1 名含む）。教育会系 OB・OG：18 名（真田克典教授・富岡康夫会長・他理科大教職課程指導室関係の先生方） 総計：43 名

◆会の概要

第一部 懇談会

① テーマ：「教育活動・実践などの悩みについて」

～教科指導・生徒指導・学級活動（経営）・人間関係など～

② 進め方

若手教員 25 名と私たち教育会 18 名がそれぞれ 5 グループに分かれて忌憚なく懇談を深めた。まとめは以下の通りです。



③ 要約

勤務時間、高校における観点別評価、働きやすい職場づくり、進学校勤務での実績づく

り、不登校生の対応など、多岐にわたる話し合いが報告された。

④ 助言など

グループ毎に加わっている真田教授・富岡会長はじめ、指導室の諸先生方から、ご自身の経験談に基づき専門的視点や論点から多岐にわたる助言があり有意義な懇談会となった。

第二部 懇親会

懇談会の終了後、並木康訓幹事（都立小松川高校勤務）の司会で会がスタートした。乾杯の発声を参与の坂本功先生、中締めを並木正理事、最後に若手教員の会平野敏詞幹事長（日本大学学第二中学高校勤務）」の挨拶で終了となりました。

何より嬉しかったことは、元学長：藤嶋昭先生が創設された小学校免許を取得できる「小プロ」から参加して下さった先生の参加、及び、遠く北海道から参加して下さった先生がおられたことです。

「若手教員の会」は、立ち上げてから 7 年目を迎えています。職業選択の多様性から新規採用教員となっても、困難に会うとすぐ離職してしまうという現実があると現職の校長先生方の声を多く聞きます。教育会の皆様の地区では如何でしょうか。

理窓教育会として、微力ではありますが、若手教員の先生方とともに交流を継続できればと考えながら若手教員の会幹事団と繋がってまいりたいと考えております。

なお、現在、組織ができている全国で連絡取れる地区は、以下の通りです。

(公立) 北海道・新潟・茨城・栃木・群馬・千葉・埼玉・東京・神奈川・愛知(岡崎)・岐阜
(私学) 関東地区すべて

今後、若手教員の会では、大学との連携を重ねられるよう努めてまいります。そのため新規採用教員の入会が図れるような活動を幹事長中心に行動を行ってまいります。どうぞ、教育会諸先輩の先生方には、ご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

<若手教員ネットワークの会>

「在りたい教員像に向けて」
クラーク記念国際高等学校 CLARK
NEXT Akihabara 教諭
(2015 理・物) 和井田 夏海

現在、私はクラーク記念国際高等学校とクラーク国際中等部両方の職員として勤務しています。クラーク高校は通信制の高等学校で、週 5



日通学するコースでは、生徒一人ひとりのニーズに応じた柔軟なカリキュラムが提供されています。中等部では、高校の教育プログラムを受けつつ、不登校の生徒に対して社会的自立の支援や学校復帰支援、進学支援を行っています。

2021 年まで私は、クラーク高校で担任業務や映像制作に関する授業を担当し、生徒たちが自分の進路に向かって成長していく姿にやりがいを感じていました。しかし、出産と育児を経て、2023 年に中等部オンラインキャンパスの職員として復帰しました。育児を通じて、より多くの生徒をサポートしたいという思いが強くなったからです。オンラインキャンパスでは、自宅から外に出ることが難しい生徒が多く、安心できる家庭の環境から教育を受けられるようにしています。入ったばかりの生徒の表情がだんだんと明るくなっていくのを見るたびに、この異動が自分にとって良い選択だったと実感しています。

中等部に異動してからも、私は「生徒との 1 対 1 の対応」を大切にしています。面談では、堅苦しさを避け、信頼関係を築くことを重視しています。そして、生徒が自己分析を通じて目標を設定できるようサポートしています。特に最近では、コーチングスキルを磨き、生徒が自分自身で成長を考え、行動できるよう支援しています。生徒の成長に合わせた定期コーチング面談では、雑談を交えなが

ら生徒の悩みや困りごとを引き出し、次のステップへ進む力を育んでいます。

私が 1 対 1 対応に力を入れている理由は、目指す教員像が「生徒が困難に直面したときにそばで支え、一緒に歩む教員」であるからです。東京理科大学で理科教員を目指し進学した時から抱いていた夢を、コーチング面談を通じて実現しつつあると感じています。

生徒が自信を取り戻し、誇らしげに笑顔を見せてくれる瞬間こそが、私にとっての大きな喜びであり、力の源です。今後も、理想の教員像に近づけるよう、努力し続けます。

(国際中等部オンラインキャンパス教諭)

<若手教員ネットワークの会>

「結果オーライの教員人生」
埼玉県立川越女子高等学校教諭
(2017 理・化) 皆木 秋穂

早いもので教員になって 8 年目を迎え、ここまでの道のりを振り返ってみると「結果オーライ」という言葉がぴったり合うように感じます。埼玉県の教員採用試験に合格し、私が最初に配属



された学校は県立所沢高校の定時制課程でした。定時制には理科の教員が原則 1 名しか配属されないため、ひとりで物化生地すべての科目を担当することになります。さらに定時制の生徒たちは大変個性が豊かなため、ただ授業をするだけでも一筋縄ではいきません。当時は毎日手探りで教材研究をしながら授業をしていました。正直「大学であんなに化学を勉強したのに、その専門性は今の仕事でも生きてないな…」と虚しくなることもありましたが、物化生地をすべて教えたことで理科全体を横断的に捉えられるようになり、化学以外の引き出しも増え、やんちゃな生徒も理科に興味を持つような授業作りを目指せるようになりました。成長できたので結果オーライです。

その後、教員 7 年目で現任校に異動になりました。今度は県内有数の進学校なので、もちろん担当科目は化学のみ、生徒はみな真面目に授業を受ける生徒ばかり……ふたたび「定時制での経験はこの学校じゃ何も生きないじゃないか…」と虚しくなりかけましたが、実際に生徒と触れ合ってみると、授業や実験で面白いポイントや、初学時につまづきやすいポイントなど、定時制とそう変わらない部分も多かったです。さらに現任校は SSH 指定校ですので、指導教官として生徒の科学研究を指導する必要があります。これには理科大で学んだ専門化学の知識経験が大いに生きています。またしても結果オーライです。

教員に限ったことではないですが、これまでの経験の中でいまだ生かされていないことも、その後思わぬ場面で生かされる機会があるはず。そのためにはまず、目の前のことに前向きに取り組む姿勢が重要だと、夜間定時制のヤンキー君たちが教えてくれたように思います。

第 1 回全国支部長連絡会開催報告 教職教育センター指導室

松本 明

さる 2 月 16 日（日）の午後 7 時から、第 1 回全国支部長連絡会をオンラインにて開催しました。参加者は、11 支部の支部長（北海道・青森・秋田・群馬・埼玉・東京・神奈川・石川・滋賀・熊本・宮崎）と、本部から富岡会長及び理事 5 名（松原・小久保・松本・臼田・平岡）でした。各地区の近況報告や情報交換が活発に行われ、あっという間の 80 分でありました。

近年、全国の理窓会各支部総会や同窓高等学校長懇談会等において、卒業生教員との交流が薄くなっているとか、東京理科大学からの情報をもっと発信してほしいとの声をよく耳にします。そういったご要望に応えるべく本連絡会を初めて実施しました。内容は、富岡会長挨拶、参加者自己紹介、近況報告及び

情報交換、本部からの諸連絡でした。

支部により活動は様々ですが、
・会員情報が分からないので、参加者を増やすことや活性化が難しい
・特に地元に戻って教員になる学生が減っているのではないかと、という支部が多くありました。

特徴的な活動を行っている支部をいくつか紹介します。

（1）理科実験講座…「おもしろサイエンス」という講座を、毎年お盆の時期に実施している。高校の先生方が子どもたちを集めて実施しており高い評価を得ている。（青森・村本支部長）

（2）研修会…道教委の ICT 課長から GIGA スクール構想の現状をお聞きし、個別最適な学びや協働的な学びを中心に話し合い研修を深めた。（北海道・能登支部長）

（3）講演会…東京理科大学の神野潔教授をお招きし、朝ドラ「虎に翼」で話題になった三淵嘉子さんの活躍を中心にご講演いただいた。教育会だけでなく企業人部会にも声がけをして、参加者を増やす工夫を行った。（埼玉・金井支部長）

（4）組織づくり…高校の校長・教頭で「神楽会」を組織したが、近年、中学校教員や若手も参加できる形で進めている。（神奈川・田中支部長）

（5）情報提供…（理窓教育会・富岡会長）

①新年茶話会で、ノーベル平和賞を受賞した「被団協」の田中熙巳氏（物理学科卒）を顕彰した。

②NHK の「歴史探偵」に埼玉支部・野澤直美氏（化学科卒）が出演し、火縄銃や火薬の説明を行う予定（2 月 26 日に放映済み）。

③宮内庁の歌会初めで、在学生・村木陸氏（理 2 部化学科）が入選した。

最後に、本部から提供した情報を記す。

（1）会報について…会報が元気でなければいけないという想いで年 2 回発行を続けている。会員の皆様への発送だけでなく、全国の支部総会でも配布している。好評であると聞いている。予算が厳しい現状もあるがなんと

か継続していきたい。

(2) 会計担当より…会費納入者が増えず、厳しい状況が続いている。今後とも協力をお願いしたい。

(3) 大学より…2023 年度から「同窓高等学校長懇談会」を再開した。来年度は、全国高等学校長協会総会に合わせて、5 月 29 日(木)の午後、神楽坂キャンパスで実施予定である。該当の校長先生宛、第一報が3月中に届く予定である。お知り合いの先生がいしたら予めお話いただきたい。

(4) 今回の参加者のご意見を伺い、来年度も2月の日曜日に引き続き開催することが了承された。

同窓の活躍

「さいたま市立高校の変遷期に関わって」

埼玉県立川越西高等学校長

(平1理専物) 金井 信也

専攻科修了の1年後、平成2年4月に埼玉県立高等学校理科教員として採用され、主に物理・化学を担当してきた。異動して2校目の校長から、「管理職を目指してはどうか。」とのお声をいただき、県立学校管理職選考を受考した。合格後、配属されたのは予想だにできなかった「さいたま市教育委員会事務局」であった。事務局には平成21年4月から、途中出入りがあったものの10年間お世話になった。(事務局として平成21年度～24年度及び27年度～29年度、市立高校教頭として平成30年度～平成31年度・中等教育学校副校長として令和2年度)

今となっては懐かしい思い出となりつつあるさいたま市教育委員会事務局及び市立高校・中等教育学校との関わりを中心に述べてみたいと思います。なお、「同窓生の活躍」というタイトルからは少々ポイントのぼけた内容の文章となっていますが、市立高校の変遷期に関わったということでご容赦いただければと存じます。

○さいたま市立高校の特色化について(平成21年度～平成24年度)

さいたま市は、平成13年5月1日に浦和市、大宮市、与野市3市が合併して誕生した。

全国で13番目の政令指定都市となり、平成17年4月1日に岩槻市を編入し、現在に至っている。さいたま市立高校としては、旧浦和市立であった市立浦和高等学校と浦和南高等学校、旧大宮市立であった大宮北高等学校と大宮西高等学校の4校があり、いずれも普通科・全日制の課程の学校であった。平成21年度の着任時、少子化の影響などで埼玉県立高等学校は統合された学校も存在していた。市長から、「市のステータスシンボルとして4校を存続させる。については、4校それぞれが、今までの教育活動実績を踏まえうえて特色化を図れないか。」との命があり、市立高校将来構想検討委員会を立ち上げ、4校の今後の在り方が検討された。紆余曲折はあったものの、最終的には市立浦和は平成19年度からスタートした市立浦和中学校との中高一貫教育の一層の充実、浦和南高校は進学重視型単位制、大宮北高校は理数科の設置、大宮西高校はグローバル推進校として特色を出していくこととなった。

○中等教育学校の立ち上げについて(平成27年度～平成29年度)

平成25、26年度と埼玉県立学校勤務を経たのち、平成27年度から再びさいたま市教育委員会にお世話になる機会をいただいた。この時期は、グローバル推進を打ち出した大宮西高校を中等教育学校に再編整備することが大きな課題であった。平成25年度、事務局内に高校教育課が新設され(それまでは高校教育係)、再編整備について注力できる環境が整った。私が再着任したときの業務の中心は、国際バカロレア(IB)の導入を踏まえた教育課程の編成や校舎設備の検討など、教育環境の整備であった。大宮西高校教員のIB導入先進校への研修派遣、IB基準に則った教室レイアウトや付帯設備の検討、校名検討委員会の運営、地域住民への説明会などの

業務に従事した。

○市立高等学校の教頭・中等教育学校の副校長として（平成 30 年度～令和 2 年度）

平成 30 年度、SSH 校として 2 年目を迎えた市立大宮北高校の教頭として着任、そして令和 2 年度、開校 2 年目の大宮国際中等教育学校副校長として着任した。市教委事務局で担当していた業務を現場で再び携わる機会をいただいた。

○結びに

さいたま市教育委員会事務局、市立高・中等教育学校の勤務を通して、多岐にわたる様々な業務に携われたことに深く感謝しています。失敗も多々ありましたが、周囲の皆様のお力をお借りしながら何とか乗り越えることができました。最後になりますが、業務経験もさることながら、義務教育を主体として担う組織の中で、小・中学校の先生方ともパイプができたことも大きな財産となり、埼玉県立学校に戻った現在でも中高連携などの分野でとても役に立っています。

大学との連携

～生徒に寄り添う教師とは～

(57 理・数) 臼田 三知永

3 月 1 日（土）に「プレ教員講座」が開催されました。この講座は 2025 年 4 月から教員としてスタートを切る学生を対象とし、教員としての心構えを再認識し、決意を固め新たに新年度を迎えてもらうことを目的としています。新型コロナウイルスの流行以降、大学主催で開催されており、今年度で 3 回目を迎えました。

石川雅俊学長、眞田克典センター長、専任教員の先生方のご臨席のもと、39 名の学生が参加しました。

石川学長からは、大学での「最終講義」という位置付けで話していただきました。講義は「生徒に寄り添う教師になりたいと決意を述べる人が多いと思いますが、寄り添うというのは非常に難しいことです」と始まりまし

た。学長自身の高校時代を振り返り、3 年間持ち上がってくれた担任の先生が、理数科 33 名の生徒に対して 33 種類の優しさを作り上げたこと、一人一人のやる気のスイッチを押してくれたことなど、具体的な事例に基づいて分かりやすく語りかけてくれました。

「本当の優しさ」は、相手や状況によって異なるものであり、そばに立って見守ることもあれば、次のレベルに行くためにさらに高いハードルを設定して頑張られた方が良い場合もある。一番良い手段を見出すことが重要だが、現在ポケットに入っている手段は少ないと思う。今後は仲間同士で学んだり、周りの先生方に教わったりしながら増やしてほしいという温かい「激励の言葉」となりました。

これに応えるように、一人一人の学生から、決意表明がありました。皆、晴々とした表情で、力強く語ってくれました。

閉会后、「若手教員ネットワークの会」幹事長である平野敏詞先生（日本大学第二中高教諭）から入会に向けての趣旨説明がありました。卒業後も、強い絆で繋がっているというのは心強いことです。

さて、教員を目指す学生に向けた講座についても報告いたします。

12 月には「合格体験発表会」が開催され、5 名の学生から体験談が語られました。これまでにない盛況ぶり、手応えを感じたものです。

一方で、1 月の私学対策講座や、2 月の教員対策講座（3 日間の春期集中講座）への参加者は前年度を下回っております。理系の就職が極めて好調なことや大学院への進学者が増えたことに加え、教員の働き方改革への理解が浸透していないことが要因であると感じています。

教員採用を取り巻く環境にも変化がありますが、石川学長のメッセージのように、教職希望の学生に寄り添う教師でありたいと考えています。（教職課程指導室 嘱託専門員）

＜特別寄稿＞

「教職に就き明日の理数教育に情熱を注げる卵を育てる場所であり続けるために」

**元理窓会京都支部長・元教育会支部長
(40理・数) 田中 理房**

平成15年3月に、京都府立商業高校校長を最後に退職し、その後京都府・京田辺市にて指導主事等に勤務し平成22年3月を最後に、かれこれ14年の月日が流れました。

思い返せば、平成3年理科大教育会にお誘いいただき機会にめぐり会いました。当時は植竹先生がご健在であり事務局に丸山さんが何かと相談に乗っていただいた記憶があります。当時私は京都府総合教育センターの研究部長でしたので、各都府県の教育事情等を知る機会も多く、また京都府の教育状況にも深く関わる立場にありました。その後府立の普通科設置校の校長に転出、最後の職業学科校では、急速に変化する情報化時代に対応できる教育を考えて学科改変に合わせて商業高校から京都すばる高校に校名を変えて情報科を新設して後進に路を譲って38年の教員を終えた次第です。その間理科大教育会も組織が大きく変わりました。特に故橋高理事長は教育会に深く造詣をお持ちで組織の形成にご尽力されておられた記憶があります。その後故塚本理事長は現在の理窓会の組織に整理されたと認識しております。

平成15年故鍵谷勤氏から理窓会京都支部長を引き継ぎ平成25年まで11年間支部長を勤めさせて頂き後任の原田克己氏（当時府立学校勤務）に京都支部を託しました。その間教育会は、平成4年から明確な組織確立には至っていませんでしたので、当面小生がお世話することとなり、平成9年からは府立西乙訓高校校長を拝命、その期に京都支部長を受けた次第です。

その後、理科大を卒業して京都府に戻り教職に就く人材に乏しく、現在でも把握できている府下の教員は数名に過ぎません。その先生方も高齢になり最早教育会としての体は成しえなくなってきたと思える次第です。その原因は考えられるのですが、まずは根底に教職への魅力減退があげられます。しかし根本的なことは、以前藤島学長時代

に経験したことですが、大阪での保護者を交えた懇談会での教育会の在り方があります。参加の保護者は、我が子の就職に心が向いて、如何にして親元に戻ってこれるかを考えている時に、教育会からの助言・指導が都教委への対策を説明されたことがありました。つまりは、教育会としては都教委への対策を親に懸命に説明することで親に安心感をと考えたのでしょう。地方は夫々異なった事情を持ってます。ましてや首都圏とは、同じ教育でも異なり、教員の求め方も異なるのです。対策も各々の府県に違いがあります。親を対象に行うならやはり地域実情の把握ができ、その情報を保護者に伝える事ではと感じたものです。そこに保護者会の意義が存在すると思えたのです。

我々の時代とは全てが変わってます。理数の教員を目指すにしても関西には多くの大学で資格が得られる時代です。わざわざ物入りとなる首都圏に子弟を送らずとも地域で職に就くことができる時代です。それでも理科大で学び教職に就き明日の理数教育に情熱を注げる卵を育てる場所であり続ける理科大であるならば、更には学生の支えとしての理窓教育会であるならば、地方の保護者に地域の情報が伝わる組織であってほしいと願うところです。

教育の社会を離れて四半世紀になろうとしている者が、デジタルの社会に向かって申し上げる状況ではありません。唯申し訳なく思うことは、理窓会京都支部長を辞した際に、原田克己支部長に教育会支部長をもきちんと引き継ぐ事務手続きが執られてなかったがため、理窓教育会全体にも迷惑を掛け、今日に至ってますことに心からお詫び申し上げます。

目下京都支部には教育関係者でお世話する人材が居ません。現在関西連合も教育関係の人材が居なくなりました。唯一滋賀県支部長の青木靖夫氏が彦根東高校校長で退職、現在も市町の指導主事でご指導中ですので、以前は京都と滋賀が何かと一体であった経緯もありますのでご参考にしていただければありがたいです。

永く理窓会並びに理窓教育会にお世話になりましたこと心から感謝とお礼を申し上げます。

事務局より

1 理窓教育会事務局について

理窓教育会事務局は PORTA 神楽坂 6 階の理窓会事務室内に置かれています。

ただし、理窓教育会事務局専属の事務員がいるわけではありませんので、ご連絡は郵送でお願いいたします。お急ぎの場合には、2 の支部長等の連絡窓口にご連絡ください。

書面での連絡先

〒162-0825 新宿区神楽坂 2-6-1
PORTA 神楽坂 6F 理窓会事務所内
東京理科大学理窓教育会 宛

2 支部長等の連絡窓口

教職課程指導室 臼田三知永（会計担当）

TEL 03-3260-4271 内線 2780

FAX 03-3260-1776

メール <usuda.m@rs.tus.ac.jp>

3 理窓教育会ホームページ

「理窓教育会」と入力すると、開きます。
「東京理科大学理窓会」のホームページの中に「理窓教育会」のものがああります。
ホームページアドレスは次の通りです。

<http://risoukai.com/educ/>

4 会費の納入について

理窓教育会は、会員の皆様の会費（年額千五百円）で運営されています。
会費の納入は郵便振替をご利用ください。

（口座番号） 00160-9-715349

（加入者名） 東京理科大学理窓教育会

会計担当からのお願い

今年度の会費の納入状況についてご報告させていただきます。

令和 6 年度は 137 名の会員の皆様から会費納入がございました。昨年度の 200 名からは大幅な減少となってしまいました。物価高騰の折、諸経費も増加してきております。ぜひ会員数の増加とともに、会費納入の促進に向けてお声がけ等、皆様方のご協力をお願い申し上げます。

（会計担当理事 平岡 盛仁）

事務局からのお願い

令和 5 年度から経費節減のためクロネコゆうメールで発送することになりました。これは信書ではありませんので、封筒に切り込みを入れて冊子のみを入れます。教育会からのお知らせを入れることはできません。

そのためヤマトビジネスメンバーズに登録して送り状発行システムで私たちが送り状（タックシール）を印刷貼付いたします。

会費の納入状況をお知らせできませんので、念のため全員に振込用紙を貼付いたします。

何かお問い合わせがありましたらメールでご連絡ください。

事務局担当理事 小久保 正己
<mkokubo@alumni.tus.ac.jp>

振込用紙
貼付位置

理窓教育会の QR CODE について

本会の QR CODE を作りましたのでご紹介いたします。

理窓教育会ホームページは前ページに記載されていますが、見るのがなかなか面倒だという印象をお持ちだと思います。

それがこの QR CODE に皆様お使いのスマホをかざすだけで、理窓教育会ホームページを直接見ることができます。具体的にはスマホの QR コード読み取りアプリを開いて、QR CODEにかざすのです。

日常生活でもテレビの画面や旅行のパンフレット、またバスの停留所などにも QR コードが付いていてご利用されていることと思います。

どうぞお使いください。



(担当理事 前田 光男)

(編集後記) 理窓教育会報第 65 号をお届けいたします。

お忙しい中、支部総会報告等でご協力いただいた支部長さん、原稿や記事をお寄せいただいた皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。有難うございました。

本号は支部総会等の報告の特集です。
原稿集約の時期がちょうど入試等の時期

と重なったために、お忙しかったことと思います。

令和 6 年度はようやくコロナ禍が一段落しましたが感染対策を日常的に行うことが求められています。子どもたちや保護者そして先生方には本当に大変だったことと思います。

さて、『坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト (第 15 回)』は、2019 年度第 11 回大会 (コロナ感染流行前) のスタイルに戻して実施することができました。松原秀成実行委員長から、その様子を詳しく報告していただきました。

また「若手教員ネットワークの会」についても担当の松原さんからご報告いただきました。コロナ禍で普及した Zoom を活用して情報交換するとともに、第 4 回目となる「若手教員ネットワークの会懇談会・懇親会」を開催いたしました。

今回登場する若手教員は、高校教員をされている和井田夏海さんと皆木秋穂さんのお二人です。和井田さんは出産と育児を経て職場に復帰して「より多くの生徒をサポートしたいという思いが強くなった。生徒の成長に合わせた定期コーチング面談では、雑談を交えながら生徒の悩みや困りごとを引き出し、次のステップへ進む力を育てていきたい」と書いています。皆木さんは定時制から進学校に異動して「実際に生徒と触れ合ってみると、授業や実験で面白がるポイントや、初学時につまずきやすいポイントなど、定時制とそう変わらない部分も多かった」と書いています。

また「同窓の活躍」を埼玉県立川越西高等学校長の金井信也さんに「さいたま市立高校の変遷期に関わって」を書いていただきました。

令和 6 年度は、Zoom を使って、ぜひ全国の支部長さんたちの会議をしたいと考えていましたがようやく 2 月に実現しました。その記録を松本明さんに「第 1 回全国支部長連絡会開催報告」まとめていただきました。この会議を来年度も 2 月の日曜日に引き続き開催します。

それでは「この年代を超えた同窓の力で」頑張っていきましょう。

(編集担当理事 小久保 正己)

2024年度実施（2025年度採用） 教員採用試験合格者数

2025年3月13日現在

校種	公 立									私 立					公私 合計
	小学校	中学校・高等学校				特別支援		校種教科 不明等	合計	中学校・高等学校				合計	
		数学	理科	情報	不明等	数学	理科			数学	理科	情報	不明等		
1 宮城			1						1					0	1
2 福島									0					0	0
3 群馬		1							1					0	1
4 栃木				1					1					0	1
5 茨城	1	2	1						4					0	4
6 埼玉	1	6	1	1	4				13	2				2	15
7 さいたま市									0					0	0
8 千葉	1	10	3	1					15	2				2	17
9 東京都	3	23	12			2			40	6				6	46
10 神奈川		10		1	1				12	1				1	13
11 横浜市		3							3					0	3
12 川崎市	1	4							5					0	5
13 相模原市									0					0	0
14 長野									0					0	0
15 静岡		2							2					0	2
16 愛知		1							1					0	1
17 山口		1							1					0	1
18									0					0	0
合計	7	63	18	4	5	2	0	0	99	11	0	0	0	11	110

校種	公 立									私 立					公私 合計
	小学校	中学校・高等学校				特支			合計	中学校・高等学校				合計	
		数学	理科	情報	不明	数学	理科	不明		数学	理科	情報	不明		
2024年度	7	63	18	4	5				99	11	0			11	110
2023年度	5	62	24	1	10				102	14	5			19	121
2022年度	6	56	21	1	7				91	19	6			25	116
2021年度	3	68	35		10	1	2		119	16	9			25	144
2020年度	7	73	35		11				126	9	4			13	139
2019年度	9	74	37	2	12				134	13	13			26	160
2018年度	7	75	29	2	9	1	1	1	125	8	7			15	140
2017年度	4	81	26	3	6	2	1		123	15	18			33	156

表中の数字は、教諭及び常勤講師の数（非常勤講師は除く）